

大学・高専機能強化支援事業（支援2：高度情報専門人材の確保に向けた機能強化に係る支援）
【大学 一般枠、特例枠】実施状況報告書

選定年度	令和5年度	学校コード	F113110102782	改組内容	研究科等の設置・増員 + 学部等の設置・増員（一般枠）
大学名	電気通信大学	設置区分	国立	事業計画名	電気通信大学「デザイン思考・データサイエンスプログラム（D×2（デンツー）プログラム）」の設置
学校種	大学	都道府県	東京都		

1.年度別の計画及び取組状況

年度別の事業計画（上欄：研究科等の設置等及びその準備（設置認可申請等）、下欄：教育環境の整備（施設整備、教員採用等）、教育活動の充実等の取組）と取組状況及び自己評価を記載してください。
当初計画から変更又は追加した取組がある場合は「取組状況」に取組を赤字で記載してください。また、計画変更申請をした場合は「取組状況」に承認日を赤字で記載してください。
計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある等、自己評価が下位2つの場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

事業期間	事業計画	取組状況	自己評価、課題（理由）とその対応	
令和5年度	【情報系組織の入学定員】<博士>0人、<修士>10人、<学士>15人 情報理工学域1期デザイン思考・データサイエンスプログラム設置（入学定員15名） 情報理工学研究科情報学専攻デザイン思考・データサイエンスプログラム（博士前期課程）設置（入学定員10名） 6月 情報理工学域1期デザイン思考・データサイエンスプログラム 収容定員増に係る意見伺い 6月 情報理工学研究科情報学専攻デザイン思考・データサイエンスプログラム（博士前期課程）収容定員増に係る概算要求 組織整備計画の提出 ①4月 本プログラムを学域（学部）及び大学院博士前期課程に設置 ②4月 実務家教員を招へい ③8月 新棟設計のための事前計画・調査及び申請に伴う行政協議（東京都、調布市、調布消防署等） 地区計画変更のための行政協議 ④10月 クロアボ教員2名を配置 ⑤10月 実務家教員を招へい ⑥10月 外国人実務家教員2名を招へい ⑦11月 女子特別選抜を実施（以後、毎年度実施する） 【教員数】11名（専任教員：9名、クロアボ教員：2名）	【情報系組織の入学定員】<博士>0人、<修士>10人、<学士>15人 情報理工学域1期デザイン思考・データサイエンスプログラム設置（定員15名） 情報理工学研究科情報学専攻デザイン思考・データサイエンスプログラム（博士前期課程）設置（定員10名） 6月 情報理工学域1期デザイン思考・データサイエンスプログラム 収容定員増に係る意見伺い 6月 情報理工学研究科情報学専攻デザイン思考・データサイエンスプログラム（博士前期課程）収容定員増に係る概算要求 組織整備計画の提出 ①4月 本プログラムを学域（学部）及び大学院博士前期課程に設置 ②4月 実務家教員を招へい ③3月 新棟建設のための調査、設計、申請に伴う行政協議（東京都、調布市、調布消防署等） ④3月時点 クロアボ教員の採用なし ⑤令和6年5月 実務家教員1名を採用予定 ⑥4月に大手IT企業から世界的に著名なデータサイエンティスト1名を招へいした。 3月にデータサイエンス分野における研究の世界的第一人者1名を他大学から招へいした。 ⑦11月 女子特別選抜を実施 【教員数】7名（専任教員：7名、クロアボ教員：0名）	R5年度自己評価	【3】計画を十分に実施している。
	令和6年度	【情報系組織の入学定員】<博士>0人、<修士>20人、<学士>45人 情報理工学域1期デザイン思考・データサイエンスプログラム30名増員（入学定員45名） 情報理工学研究科情報学専攻デザイン思考・データサイエンスプログラム（博士前期課程）10名増員（入学定員20名） 6月 情報理工学研究科情報学専攻デザイン思考・データサイエンスプログラム（博士後期課程）設置に係る概算要求 組織整備計画の提出 ①クロアボ教員を2名から5名に増強し、カリキュラムを実施する。 ②新棟建設に伴うアドバイザー業務実施 ③AI計算機環境整備のため設備を導入する。 ④4月 コーディネーター（学内担当）を採用 ⑤4月 コーディネーター（海外担当）を採用 【教員数】14名（専任教員：9名、クロアボ教員：5名）	【情報系組織の入学定員】<博士>0人、<修士>20人、<学士>45人 情報理工学域1期デザイン思考・データサイエンスプログラム30名増員（入学定員45名） 情報理工学研究科情報学専攻デザイン思考・データサイエンスプログラム（博士前期課程）10名増員（入学定員20名） 6月 情報理工学研究科情報学専攻デザイン思考・データサイエンスプログラム（博士後期課程）設置に係る概算要求 組織整備計画の提出	R6年度自己評価
令和7年度	【情報系組織の入学定員】<博士>2人、<修士>20人、<学士>45人 情報理工学研究科情報学専攻デザイン思考・データサイエンスプログラム（博士後期課程）設置（入学定員2名） 6月 情報理工学研究科情報学専攻デザイン思考・データサイエンスプログラム（博士後期課程）収容定員増に係る概算要求 組織整備計画の提出 ①4月 後期課程の受入開始 ②令和6年度までの体制を継続してカリキュラムを実施する。 ③新棟設計・建設工事（初年度）実施 ④AI計算機環境整備のため設備を導入する。 【教員数】14名（専任教員：9名、クロアボ教員：5名）		R7年度自己評価	リストから選択してください。
	令和8年度	【情報系組織の入学定員】<博士>5人、<修士>20人、<学士>45人 情報理工学研究科情報学専攻デザイン思考・データサイエンスプログラム（博士後期課程）3名増員（入学定員5名） ①4月 クロアボ教員を5名から6名に増強し、カリキュラムを実施する。 ②新棟設計・建設工事（2年目）実施 【教員数】15名（専任教員：9名、クロアボ教員：6名（1名増員））		R8年度自己評価
令和9年度	【情報系組織の入学定員】<博士>5人、<修士>20人、<学士>45人 6月 情報理工学研究科情報学専攻デザイン思考・データサイエンスプログラム（博士前期課程）収容定員増に係る概算要求 組織整備計画の提出 ①令和8年度までの体制を継続してカリキュラムを実施する。 ②新棟建設完了 【教員数】15名（専任教員：9名、クロアボ教員：6名）		R9年度自己評価	リストから選択してください。
	令和10年度	【情報系組織の入学定員】<博士>5人、<修士>45人、<学士>45人 情報理工学研究科情報学専攻デザイン思考・データサイエンスプログラム（博士前期課程）25名増員（入学定員45名） ①4月 クロアボ教員を6名から7名に増強し、カリキュラムを実施する。 【教員数】16名（専任教員：9名、クロアボ教員：7名（1名増員））		R10年度自己評価
令和11年度	【情報系組織の入学定員】<博士>5人、<修士>45人、<学士>45人 6月 情報理工学研究科情報学専攻デザイン思考・データサイエンスプログラム（博士後期課程）収容定員増に係る概算要求 組織整備計画の提出 ①令和10年度までの体制を継続してカリキュラムを実施する。 【教員数】16名（専任教員：9名、クロアボ教員：7名）		R11年度自己評価	リストから選択してください。
	令和12年度	【情報系組織の入学定員】<博士>10人、<修士>45人、<学士>45人 情報理工学研究科情報学専攻デザイン思考・データサイエンスプログラム（博士後期課程）5名増員（入学定員10名） ①4月 クロアボ教員を7名から8名に増強し、カリキュラムを実施する。 【教員数】17名（専任教員：9名、クロアボ教員：8名（1名増員））		R12年度自己評価
令和13年度	【情報系組織の入学定員】<博士>10人、<修士>45人、<学士>45人 ①令和12年度までの体制を継続してカリキュラムを実施する。 【教員数】17名（専任教員：9名、クロアボ教員：8名）		R13年度自己評価	リストから選択してください。
	令和14年度	【情報系組織の入学定員】<博士>10人、<修士>45人、<学士>45人 ①クロアボ教員を8名から10名に増強し、カリキュラムを実施する。 【教員数】19名（専任教員：9名、クロアボ教員：10名（2名増員））		R14年度自己評価

フォローアップ対象年度	令和5年度	大学名	電気通信大学
-------------	-------	-----	--------

2.申請資格の確認

該当しない場合は、チェックしてください。

- i) 学生募集停止中の大学

該当無し	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
------	--
- ii) 学校教育法第109条の規定に基づき文部科学大臣の認証を受けた者による直近の評価の結果、「不適合」の判定を受けている大学

該当無し	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
------	--
- iii) 「私立大学等経常費補助金」において、定員の充足状況に係る基準以外の事由により、前年度に不交付又は減額の措置を受けた大学

該当無し	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
------	--
- iv) 設置計画履行状況等調査において、「指摘事項（法令違反）」が付されている大学

該当無し	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
------	--
- v) 大学、短期大学及び高等専門学校を設置等に係る認可の基準（平成15年文部科学省告示第45号）第2条第1号又は第2号のいずれかに該当する者が設置する大学

該当無し	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
------	--

3.申請要件の取組状況

令和5年度 の取組が当初の計画通りに進んでいる、又はチェック項目に該当する場合はチェックしてください。計画通りに進んでいない、又はチェック項目に該当しない場合は右欄に課題（理由）とその対応を記載してください。

①	高等教育の修学支援新制度において、大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）に基づき、財務状況や収容定員充足率が適正であることを含めた要件を満たすことの確認を受けた大学であること。なお、学部を置かない大学や新設予定の大学で、応募時点において、高等教育の修学支援新制度における要件確認の対象に該当しないものは、本要件は適用されない。					
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">確認を受けている</td> <td style="width: 50%; text-align: center;"><input checked="" type="checkbox"/> チェック</td> </tr> <tr> <td>対象に該当しない</td> <td style="text-align: center;"><input type="checkbox"/> チェック</td> </tr> </table>		確認を受けている	<input checked="" type="checkbox"/> チェック	対象に該当しない	<input type="checkbox"/> チェック	
確認を受けている	<input checked="" type="checkbox"/> チェック					
対象に該当しない	<input type="checkbox"/> チェック					
②	志願者数の状況や入学定員及び収容定員充足率等を踏まえた十分な学生確保の見通しを備えた計画となっていること。	学生募集開始年度で情報公開が年度途中となり、短い募集期間ではあったが学士課程は定員15名のところ15名、修士課程は10名のところ5名の入学者を得た。 令和6年度は大学院志望者向けイベントであるオープンラボにて当該プログラムのブースを設置し進学相談に乗る、プログラム専用Webページを設けて情報発信する、当該プログラムの目玉である海外インターンシップの経済的支援を充実させ、学生の不安を払拭する、学域1類2年生の必修授業において当該プログラムを紹介するなどの取組を行い、学生確保に努める。				
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">計画通りに進んでいる</td> <td style="width: 50%; text-align: center;"><input type="checkbox"/> チェック</td> </tr> </table>		計画通りに進んでいる	<input type="checkbox"/> チェック			
計画通りに進んでいる	<input type="checkbox"/> チェック					
③	産業界を含む社会のニーズ等を踏まえ、学修目標の具体化、体系的な教育カリキュラムの編成及び大学での学修に必要な資質・能力等を評価する入学者選抜が適切に実施され、そのための体制を構築する計画となっていること。（その際、国際的な質保証の枠組みを活用するなど出口における質保証にも十分留意することが重要。）					
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">計画通りに進んでいる</td> <td style="width: 50%; text-align: center;"><input checked="" type="checkbox"/> チェック</td> </tr> </table>		計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック			
計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック					
④	特定成長分野のうちデジタル分野の人材を育成するための戦略、適切な管理・教育体制や教育研究環境の整備を図る計画となっていること。					
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">計画通りに進んでいる</td> <td style="width: 50%; text-align: center;"><input checked="" type="checkbox"/> チェック</td> </tr> </table>		計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック			
計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック					
⑤	計画の対象となる研究科・専攻等において、実務経験のある教員等による授業科目を配置する計画となっていること。					
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">計画通りに進んでいる</td> <td style="width: 50%; text-align: center;"><input checked="" type="checkbox"/> チェック</td> </tr> </table>		計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック			
計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック					
⑥	特定成長分野のうち情報系分野に係る研究科、専攻、コース等の設置・増員（研究科、専攻の定員の増員を伴わないものを含む。）、専攻に係る課程の変更（研究科、専攻、コース等の設置・増員及び専攻に係る課程の変更に伴う学部、学科、コース等の設置・増員（学部、学科の定員の増員を伴わないものを含む。）を含む。）（以下「研究科等の設置等」という。）による体制強化の計画であること。なお、コース等の設置・増員による体制強化の場合は、学則において、コース等の募集人員数を明記する計画であること。					
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">計画通りに進んでいる</td> <td style="width: 50%; text-align: center;"><input checked="" type="checkbox"/> チェック</td> </tr> </table>		計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック			
計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック					
⑦	社会において具体的な人材ニーズが現に存在する、又は、その十分な見通しのある分野に係る研究科等の設置等の取組であること。					
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">計画通りに進んでいる</td> <td style="width: 50%; text-align: center;"><input checked="" type="checkbox"/> チェック</td> </tr> </table>		計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック			
計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック					
⑧	教育の実績を有する既設の情報系分野に係る研究科、専攻（授与する学位が、学位種別分野変更基準に定める理学関係、工学関係又は農学関係のいずれかを学位の分野として含むものに限る。）を有する大学において、高度情報専門人材を育成する計画であること。（大学（特例枠）については、既設の情報系分野に係る学部、学科（授与する学位が、学位種別分野変更基準に定める理学関係、工学関係又は農学関係のいずれかを学位の分野として含むものに限る。）を有する大学とする。）					
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">既設の情報系分野に係る研究科等を有する</td> <td style="width: 50%; text-align: center;"><input checked="" type="checkbox"/> チェック</td> </tr> </table>		既設の情報系分野に係る研究科等を有する	<input checked="" type="checkbox"/> チェック			
既設の情報系分野に係る研究科等を有する	<input checked="" type="checkbox"/> チェック					
⑨	機構による事業計画の選定があった日から2年を経過する日を含む年度の末日までに、計画の対象となる研究科等の設置等を行う計画であること。					
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">計画通りに進んでいる</td> <td style="width: 50%; text-align: center;"><input checked="" type="checkbox"/> チェック</td> </tr> </table>		計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック			
計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック					
⑩	計画の対象となる研究科等の設置等において、大学院修士課程（博士前期課程を含む。）15名以上又は大学院博士課程（博士後期課程を含む。）5名以上の入学定員の増員を行う計画であること。					
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">計画通りに進んでいる</td> <td style="width: 50%; text-align: center;"><input checked="" type="checkbox"/> チェック</td> </tr> </table>		計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック			
計画通りに進んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> チェック					
⑪	国立大学について、大学全体の収容定員の増員を伴う学部定員の増員を行う場合は、国立大学法人の第5期中期目標期間終了時まで他学部・他学科を中心に同規模の定員減を行う計画であること。					
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">計画通りに進んでいる、又は対象に該当しない</td> <td style="width: 50%; text-align: center;"><input checked="" type="checkbox"/> チェック</td> </tr> </table>		計画通りに進んでいる、又は対象に該当しない	<input checked="" type="checkbox"/> チェック			
計画通りに進んでいる、又は対象に該当しない	<input checked="" type="checkbox"/> チェック					
⑫	教員の確保・配置状況等を踏まえた実現可能性の高い計画になっていること。	当初計画では教員数11名（専任教員：9名、クオアポ教員：2名）を確保の予定であったが、学生の収容数を勘案しながら必要に応じて計画の見直しを行い、適切に7名（専任教員：7名、クオアポ教員：0名）の配置を進めた。 令和6年度は専任教員2名の招へいを目標に、採用計画を策定・実行する。				
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">計画通りに進んでいる</td> <td style="width: 50%; text-align: center;"><input type="checkbox"/> チェック</td> </tr> </table>		計画通りに進んでいる	<input type="checkbox"/> チェック			
計画通りに進んでいる	<input type="checkbox"/> チェック					
⑬	文部科学省が実施する数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度における「応用基礎レベル」について、大学又は計画の対象となる学部若しくは計画の対象となる研究科に関連する主な学部が認定を受けている、又は認定を受ける計画があること。なお、学部を置かない大学で、本認定制度の対象に該当しないものについては、本要件は適用されない。					
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">認定を受けている、又は対象に該当しない</td> <td style="width: 50%; text-align: center;"><input checked="" type="checkbox"/> チェック</td> </tr> <tr> <td>認定を受ける計画が進んでいる</td> <td style="text-align: center;"><input type="checkbox"/> チェック</td> </tr> </table>		認定を受けている、又は対象に該当しない	<input checked="" type="checkbox"/> チェック	認定を受ける計画が進んでいる	<input type="checkbox"/> チェック	
認定を受けている、又は対象に該当しない	<input checked="" type="checkbox"/> チェック					
認定を受ける計画が進んでいる	<input type="checkbox"/> チェック					

フォローアップ対象年度	令和5年度	大学名	電気通信大学
-------------	-------	-----	--------

④	文部科学大臣から国際卓越研究大学として認定を受け、支援を受けている大学でないこと。	
	認定を受けておらず申請する意向もない	

4. 審査要項における確認項目の計画及び取組状況

令和5年度 の取組実績及び申請時の計画を記載してください。取組実績は会社名や大学名、定量的なデータ等を示し具体的に記載してください。検討中であっても状況を記載してください。計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

① 地域において自治体や企業等と連携した取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
<p>本学ではDEFPIにおいて、既に連携企業や自治体とコンソーシアムを形成しており、これらの企業等から業務上の課題と実データの提供を受け、分析・モデリングの教材として活用している（逗子市との連携によるビッグデータを活用した行政課題解決、東京都との連携による円筒形太陽電池による都市型壁面発電の有効性実証、鉄道会社との連携によるコロナ後の鉄道事業戦略の提案等）。</p> <p>今後は、このコンソーシアムの構成企業等を更に拡大させ、幅広い分野から講師の派遣や研究インターンシップ受入、実データの提供等を受けることとしている。</p>	<p>DEFPI関連の外部連携として、令和5年4月に都市型太陽電池による創電・蓄電の強化推進事業に関する基本協定を東京都と締結したほか、令和2年11月に締結した「逗子市と国立大学電気通信大学との連携、協力に関する協定」に基づき、令和5年度も本学で開講する「独り立ちデータサイエンティスト養成講座」の逗子市民無料受講枠を用意した。</p> <p>令和5年度はコンソーシアムへの新たな参画機関、連携機関の追加はなかったものの、引き続きコンソーシアムの構成企業等を拡大することで、幅広い分野からの講師派遣、研究インターンシップ受入、実データ提供を図る。</p>	

② 初等中等教育段階の学校との連携に関する取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
<p>平成29年度から、高校生を対象に高校と大学をシームレスにつなぐ教育プログラム「UECスクール」（高大接続教室）を開講しており、本学の教育の特徴である実験・演習を取り入れた「理科学実験Ⅰ/Ⅱ/Ⅲ」、「プログラミング入門」等の開催や大学の「基礎プログラミング演習」の先取り学修を実施している。本プログラムの内容についてもこれらのスキームを活用して積極的な高大接続を進めることとしている。</p> <p>令和4年度には、埼玉県教育委員会からの依頼を受け、高校教員向けデータサイエンス基礎教育のe-ラーニングビデオ教材を制作しており、本教材は他県にも広く展開させていく予定である。</p> <p>令和5年度からは、埼玉県熊谷高校と連携し、高校生が本学の研究室で大学のデータサイエンス教育を体験する取組を開始する。</p>	<p>高校と大学をシームレスにつなぐことを企図した高校生向け教育プログラム「UECスクール」令和5年度の参加学校数・参加者数は次のとおりであった：①理科学実験 10校12名、②プログラミング入門 34校40名、③先取り学修 基礎プログラミング 26校98名</p> <p>令和5年度は埼玉県熊谷高等学校の生徒10名が本学研究室を見学するデータサイエンス研修を敢行したほか、群馬県にある私立樹徳高等学校と連携し、当該高校教員との打合せを数回と、生徒向け特別講義を実施した。このほか東京都立立川高等学校からも依頼を受け、データサイエンス特別講義を実施した。</p>	

③ 女子学生、社会人学生、留学生等の確保に向けた特色ある取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
<p>本学では、女子中高生の理工系分野への関心を喚起するため「匠ガールプロジェクト」を年に複数回実施するなど、従前から女子学生の増加のための取組を行ってきた。本プロジェクトは女性教員・大学院生のロールモデル懇談会、ものづくりワークショップ、ラボ体験等を開催しているが、定員40名程度のところ毎回定員を大幅に超える応募があり、データサイエンス分野に関する関心も年々高まってきていることから、本プログラムにおいても令和6年度の特別選抜から新たに定員5名の女子枠入試を実施することとしている。</p> <p>DEFPI修了生等の社会人学生が無理なく学修する環境を整えるため、オンライン授業の積極的な活用を図るほか、留学生の確保に向けては留学フェアへの参加や本学主催によるASEANの各大学、企業等が参加するセミナーの開催等を通して優秀な留学生の確保を推進する。</p>	<p>本学で女子中高生の理工系分野の進路選択を支援すべく取り組んでいる「匠ガールプロジェクト」では、令和5年7、8、12月、令和6年3月にラボ体験を開催し、180名の女子中高生が参加した。参加者への事後アンケート結果では高い満足度評価が得られた。令和5年8月にはNTT先端技術総合研究所との共催で研究所見学ツアーを催行し、10名の女子中高生が参加した。</p> <p>令和5年11月には「デザイン思考・データサイエンスプログラム」において女子学生を対象とした学校推薦型選抜を実施し、定員5名のところ5名が入学を決めた。</p> <p>留学生の確保に向けた取組としては、留学フェア6件、学外合同進学説明会12件への参加のほか、学内イベント3件を実施し、本学の認知度向上および優秀な留学生の獲得に努めた。</p>	

④ 他の大学（外国大学を含む。）・高等専門学校等と連携した取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
<p>デジタル先進国であるデンマークにおいてトップクラスであるロスキレ大学との協定を元に、教員・学生の交流やオンライン講義を行う計画である。</p> <p>また、東京外国語大学、東京農工大学との共同による大学間の連携を基盤とした文理協働型グローバル人材育成プログラムでは学部生を対象とした「協働共通・専門教育プログラム」を開設するほか、多摩地区の各国立大学や津田塾大学などの単位互換に関する協定に基づき、各大学にデータサイエンス科目の提供を行っており、これらのスキームを発展させ更に積極的に連携することとしている。</p> <p>さらに東京都立産業技術高等専門学校とは連携協定を結び、特に情報セキュリティ分野における授業科目の提供や、高専専攻科生の本学研究室へのインターンシップ受入などを行っている。</p>	<p>デンマーク・ロスキレ大学との間で令和5年1月に締結した協定に基づき、研究交流・学生交流に向けた準備を進めている。東京外国語大学、東京農工大学、電気通信大学の西東京三大学協働共通教育プログラムである「英語で授業を行う科目（英語化科目）」は本学学生7名が、同「3大学協働基礎ゼミ」は本学学生10名が履修した。このほか多摩地区国立5大学単位互換制度及び津田塾大学との単位互換制度を用いて、本学では前期に11名9科目、後期に8名3科目の特別聴講学生受入れを行った。</p> <p>東京都立産業技術高等専門学校と電気通信大学は令和5年4月に連携協力基本協定を締結し、本学授業科目の提供や、高専専攻科生の本学研究室へのインターンシップ受入に向けた準備を進めている。</p>	

大学名	電気通信大学	改組内容	研究科等の設置・増員+学部等の設置・増員（一般枠）
-----	--------	------	---------------------------

3-3. 学士課程

年度				R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度	
大区分	小区分	項目	単位																				
学生の入学・在籍状況	春季入学	入学定員	人	720	750																		
		入学者数	人	737	773																		
	その他の学期	入学定員	人	0	0																		
		入学者数	人	0																			
	入学者合計	入学定員(A)	人	720	750	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		入学者数(B)	人	737	773	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		入学定員充足率 (B/A)	倍	1.02	1.03	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***
	収容定員等	収容定員(C)	人	2,944	2,974																		
		編入学定員	人	32	32																		
		在籍者数(D)	人	3,360	3,386																		
		編入学者数	人	40	32																		
		収容定員充足率 (D/C)	倍	1.14	1.14																		

4. 外部資金の状況（全学）

年度		R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度	
項目	単位																				
外部資金獲得額	千円	3,018,687																			

特記事項

博士課程、修士課程における小区分「その他の学期」の入学定員0は若干名を意味する。
--